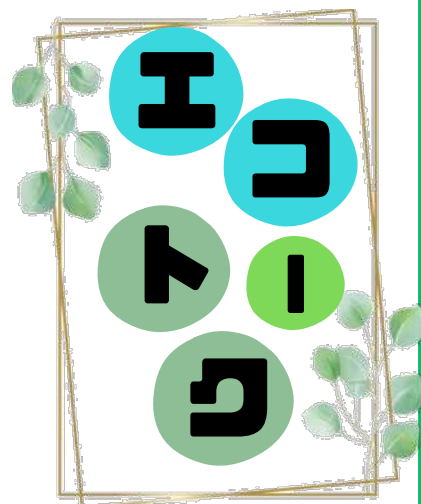


町 美 宇



(2021年広報9月号)



エコトークで、世界各国が地球温暖化対策を真剣に進めないといふ世紀末頃には平均気温が産業革命時に比べて4・8℃上昇し、地球上で生息する多くの生物の存続自体が危ぶまれる事態になることをお伝えしていますが、本年7月に国立環境研究所などの研究チームから「孫は祖父母が遭遇しないような暑い日と大雨を何度経験するのか？」の予測が発表されました。

1960年に生まれた人が60歳になった年(2020年)に孫が生まれたと仮定し、孫世代が80歳(2100年)になるまでのケースを考えた予測です。日本では高温の日が増え、大気中に含まれる水蒸気が増え、大雨の頻度が増え、孫世代がこれまでの日降水量最大値を大幅に上回る大雨を生涯に3回程度、高温の日は生涯に400回程度経験することになるとのことです。この気温上昇を2℃に抑えた場合の大雨は2回程度、高温の日は20回程度に抑えられると予測しています。

地球規模では特に赤道付近での影響が大きく、東南アジア・中央アフリカ・南米大陸北西部では大雨は5回以上、高温の日は1000日以上経験する見込みとのこと。この赤道付近の国々では地球温暖化物質の排出量が比較的小さいのに甚大な影響を受ける不公平さが指摘されています。

海水温は2020年までの100年で地球平均では0・56℃、日本近海では1・16℃上昇していることが確認されています。海水温が1℃上昇すると湿度は7%上昇すると言われていますので台風や大雨が増えるのも当然です。

海水温の変化は魚類の分布も変えます。鮭やサンマの不漁は乱獲が主因とされてきましたが、海水温の上昇による影響の大きさも指摘されています。

地球温暖化は決して他人事ではありません！子どもや孫たちのことからを想うと自分たちのこととして取り組む思いと行いが不可欠です。

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆